

会議録（概要）

会議名称	令和4年度 第2回愛西市行政改革推進委員会
開催日時	令和5年2月6日（月） 午後2時から午後4時10分まで
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	神田倫代委員
公開・非公開	公開
傍聴人の数	0人
審議事項等	<p>●審議事項</p> <p>(1)「第3次行政改革大綱個別取組事項」に係るヒアリングの実施について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議次第 ・ 資料番号1 第3次行政改革大綱個別取組事項に係るヒアリングについて ・ 資料番号1-1 個別取組事項 No. 10 ヒアリング判定・提言シート ・ 資料番号1-2 個別取組事項 No. 87 ヒアリング判定・提言シート ・ 第3次行政改革大綱個別取組事項ヒアリングシート No. 10 防災意識の高揚（危機管理課） ・ 第3次行政改革大綱個別取組事項ヒアリングシート No. 87 ふるさと応援寄附金の推進（財政課） ・ 第3次行政改革大綱期間スケジュール ・ 第3次行政改革大綱個別取組事項一覧 ・ 配席図 ・ 委員名簿 ・ 第3次愛西市行政改革大綱（冊子）
審議経過	別紙のとおり

愛西市行政改革推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会長	岩崎 恭典	
副会長	千頭 聡	
	住田 宣子	
	水越 悟	
	石原 一孝	
	加藤 正彦	
	平野 伸弥	
	神田 倫代	欠席
	鈴木 幸子	
	稲垣 万貴子	
	磯元 玲奈	
	大橋 理絵	
	後藤 理夫	
	佐藤 輝彦	
	服部 磯和	

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
副市長	鈴木 睦	
教育長	平尾 理	
総務部長	近藤 幸敏	
市民協働部長	人見 英樹	
保険福祉部長	小林 徹男	
保険福祉部参事	松本 繁	
健康子ども部長	清水 栄利子	
産業建設部長	宮川 昌和	
産業建設部参事	栗山 敏宏	
産業建設部参事	加藤 孝二	
上下水道部長	山田 英穂	
議会事務局長	鷺尾 和彦	
教育部長	三輪 進一郎	
消防長	加藤 義久	
総務課長	佐藤 博之	
人事課長	青木 万亀雄	
財政課長	堀田 毅	
財政課課長補佐	橋本 重樹	
財政課主査	服部 好輝	
危機管理課長	大野 敦弘	
危機管理課課長補佐	中井 久美子	
危機管理課主査	佐藤 博康	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部参事	伊藤 孝一	
企画政策部経営企画課長	井戸田 悦孝	
企画政策部経営企画課課長補佐	渡邊 典夫	
企画政策部経営企画課主任	東山 祐佳	

審議経過

発言者	内容（概要）
会長等	<p>1. あいさつ</p> <p>2. 議事録署名委員の指名 議事録署名委員：水越 悟</p> <p>3. 審議事項 (1)「第3次行政改革大綱個別取組事項」に係るヒアリングの実施について</p>
事務局	<p>(資料1について説明)</p>
議長	<p>今回、ヒアリングを行う2つの項目が行政改革大綱のどこに位置しているのかを私たちは見なければならぬ。「防災意識の高揚」であれば、市民との連携・協働、地域の人材発掘がテーマとして挙げられている。その観点で、市がやっていることについてこれから担当課よりご説明いただき、質疑応答する中で、皆様方にご判断いただきたい。</p> <p>ふるさと応援寄附金の場合も、健全で持続可能な財政基盤の確立に資するものであるかどうか、財源が確保できているかどうかを判定の基準になってくる。説明を聞きながら、皆さんは住民の視点でご判断いただきたい。</p>
職員	<p>(個別取組事項 No. 10「防災意識の高揚」について説明)</p>
委員	<p>令和3年度の自主防災会は175団体あり、一昨年が177団体であったため、減ったということになるが、なぜ減ったのか。また、一昨年より自主防災会の活動や訓練が減ったのは、単にコロナが原因なのか。</p>
職員	<p>自主防災会同士の統合により177団体から175団体となった。また、訓練が減ったのはコロナ禍であることが主な原因であると分析している。</p>
委員	<p>コロナ禍以前はどうだったのか。</p>
議長	<p>令和元年度も175団体あり、訓練を実施した単独自主防災会が100団体であることから、75団体はやっていないということにならないかということだと思う。</p>
職員	<p>自主防災会の中でも温度差がある。実際、コロナ禍以前は、100団体ということで、半分以上の自主防災会が訓練されたが、コロナ禍以降、</p>

委員	<p>減少したと考えられる。</p> <p>現実として3、4割ほどの自主防災会は活動できない状態であるのが実態ではないか。</p> <p>自主防災会の役員は町内会の会長や総代になられた方が1年のみの充て職として務められる。新しく役員になられた方からは、マニュアルには書いてあるものの、具体的に何をどうやってやったらいいのかわからないので教えてほしいと言われることがある。</p> <p>自主防災会を育成する方策として、「あなたの自主防災会では1年でこういうことをやってください。」というくらいの指示や提案をしないといけない。</p>
議長	<p>担当課としてもそのような認識はあるのか。</p>
職員	<p>実際、町内会の総代が自主防災会長になられるところが多数であると思っている。総代は1年で交代することが多々あり、変わる団体は多いと感じている。例えば、自主防災会として別の組織を作り、そこで役員を安定させ、2、3年やっていただくということになると良いのではないかというお話もいただいている。</p>
委員	<p>高齢の方が自力で脱出することは非常に困難であり、家族も助けられないとなると、救助してくれるのは友人や隣人だけということになる。災害が起きた際、そういう方々を一体誰が救助するのか、一步踏み込んだ計画を作っていただきたい。</p> <p>災害が起きた時にはどう避難するのか。誰が誘導するのかなどについてはあまり知らされていない。</p> <p>いかなる時も避難所としての機能が発揮できるように、誰がどういう役割を持ってその機能を維持していくのか検証していただきたい。</p>
職員	<p>まずは市の職員が避難所に伺うことになっている。学校も大きな災害になってくると非常配備体制を取ると思う。その際、お近くの先生に対応していただくということも考えられる。</p>
委員	<p>私は市江小学校区に住んでいるが、既に解決している。危機管理課や小学校と話し合い、連携をとる体制を作っている。自主防災会や連合会で自分たちに合ったように組み立てていかないといけない。</p>
委員	<p>体制ができ上がっているならば、住民にも周知していただかないといけないと思う。誰がどんな役割を持って避難所を管理しているのか、どの資料を見ても分からない。</p>

委員	<p>愛西市民はどこへ安心して避難できるのかということが本当に大きな問題だと思う。防災マップを見ると、避難所はあってもそこには避難できないという状況が発生するのが明確となっている。それこそ、一宮や稲沢へ避難しなければならなくなる状況も起こり得る。実際の被害の状況を想定した段階での防災計画を考えていただきたい。それによって活動も変わってくる。</p> <p>(ヒアリング判定・提言シートを記入)</p>
議長	<p>それでは、判定の内容を確認させていただきく。</p> <p>(挙手により判定を集計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妥当」… 1名 ・「再検討が必要」… 11名 <ul style="list-style-type: none"> (内訳)・「現状認識・課題認識を見直すべき」… 5名 <ul style="list-style-type: none"> ・「取組内容を明確にすべき」… 4名 ・「取組内容に新たな視点を加えるべき」… 11名 ・「取組をスピードアップすべき」… 1名 ・「その他」… 0名 ・「判断ができない」… 1名
議長	<p>まずは、「妥当」という判定の理由について教えていただきたい。</p>
委員	<p>まずは防災意識の向上が大事であると思ったので、取組内容としては妥当ではないかと思った。ただ、現状として情報共有が足りていないと思うし、自分がどこに属しているのか、情報が開示されているのかどうか全然分からないので、避難訓練マニュアルの共有など、改善が必要であると書き加えさせていただいた。</p>
議長	<p>「判断ができない」とお答えいただいた理由をお願いしたい。</p>
委員	<p>一生懸命やっていたが、もう少し現状に合ったことをやっていた方が良い。検証する資料がないので、ここで良い悪いについて申し上げることはできない。</p>
委員	<p>私の地元は一戸建ての住宅がほとんどで、平成25年度から三年ごとに各世帯の家族構成を伺っている。パソコンにデータを保存し、いざ災害が起きた時に誰が住んでいて無事なのか確認できるようにしている。個人情報であるため、絶対に封筒を密閉して送り返すよう依頼し、班長等も中身が見れないようにしている。また、個人情報保護法の改定に関するチラシを全戸カラー印刷で配布している。この取組をぜひともやっ</p>

議長	<p>ていただいた方が良い。</p> <p>個人情報保護は重要な話である。相手方の了承を得なければならないため、地縁団体として自治会を法人化するのも一つの手だと思う。</p> <p>ハザードマップを見ると、愛西市は多くが浸水する予測となっているが、すぐに浸水するわけではない。地震は予測できないが、風水害は水位が上がる、風が吹き出すまでの間にはタイムラグがある。それに応じタイムラインで避難をする、風や潮の状況が悪くなったら高いところに避難するなど、時間的に余裕を持って動けるような訓練をしておかなければいけないし、その時実際に救援にあたる一人暮らしの足の悪い方がいるという情報を地域で共有できるような仕組みを作っておかなければいけないということが防災意識の高揚の中では一番のポイントであるとお伺いした。そういうことをできるような体制を作っておくこと、そして、次の人材をどう確保するのかということが地域の課題になるかと思う。これは町内会や自治会、自主防災組織の後継者をどうするのかという大きな問題でもある。</p>
委員	<p>伊勢湾台風では、全て停電になった。風が相当吹いている中で畳の上で座っていた。夜になって周りの人が、お尻が冷たいと言い出し、確認すると水が押し寄せていた。物を上げようと思っても真っ暗で上げることができなかった。それで水害が3ヶ月程度続いた。当時は水洗トイレがなかったため、糞尿が全て上がって来てしまった。そのようなことも加味した防災訓練をやっていただかないといけないと思う。</p>
議長	<p>タイムラインを作って、被害予測して避難するという訓練をしなければいけないと思う。水が来てからだだと本当に動けないし、夜ならば尚更であるため、それを想定して早め早めに動けるようにする訓練をこれからはしなければいけないということである。</p>
委員	<p>愛西市全体の問題として、自主防災会ごとで考えないといけないということである。</p>
議長	<p>この地域は伊勢湾台風の経験がすごく刻み込まれている。風水害のタイムラインに応じた避難訓練の必要性も「防災意識の高揚」の中では、特に書いておかなければいけないことかもしれない。</p>
職員	<p>防災マップには、高潮のメカニズムや避難所に関する情報、我が家の広域避難計画が掲載されている。高潮は、地震ではなく台風の影響で発生する。地震のように突然来るものではないため、どのような大きさでどのようなスピードで押し寄せるのか事前にある程度予測が立てられる。伊勢湾台風当時に比べると、色々なものを情報収集する手段がある</p>

職員	<p>ため、常日頃から情報収集していただきたい。</p> <p>また、我が家の広域避難計画も掲載されており、避難計画を自分たちで作っていただくものになる。</p> <p>現在、「木曾三川下流部広域避難実現プロジェクト」もある。広域避難をどのようにしていくのかということが検討されており、高潮ハザードマップには、そのような情報も掲載されている。</p> <p>(個別取組事項 No. 87 「ふるさと応援寄附金の推進」について説明)</p>
議長	<p>ふるさと納税に関する一連の事務には、どれくらいの市職員が関わっているのか。</p>
職員	<p>基本的には財政課職員 2 名で対応している。</p>
議長	<p>2 名の職員が専属で業務にあたるのか。</p>
職員	<p>専属ではないため、他の業務に携わりながらの「兼務」になる。</p>
委員	<p>愛西市民の方が他の自治体へ寄附した額、かかっている経費など、出ていっている部分をぜひとも書くべきだと思うが、差し支えなければ、出ていっている額を教えてください。</p>
職員	<p>愛西市民の方が他市にふるさと納税をしたことによる住民税の控除額が、令和元年度は約 4,900 万円、令和 2 年度は約 6,300 万円、昨年度は約 6,900 万円となっている。</p>
議長	<p>それだけの額を市民が他自治体にふるさと納税しており、愛西市に入ってくるのが 900 万円から 3,500 万円になっているという状況である。</p>
委員	<p>返礼品の収入として市に入ってくるのか。</p>
職員	<p>実際の寄附金額については、返礼品を提供いただいている事業者に支払う委託料などの経費がおおよそ 50% となっている。住民税の控除額は、そのままマイナスになるが、愛西市の場合は、控除額に対し、一定の割合で交付税措置という形で国から補填されるため、単純に差引をした金額になる。経費、寄附額、控除額に対する交付税措置を単純計算で差し引きすると、令和元年度は -720 万円、令和 2 年度は 330 万円、昨年度は 1,940 万円となっている。</p>
委員	<p>前年対比が増加していることやそこまで市外へ税金が流出していないということが分かった。近隣自治体と比較して愛西市はどういう状況</p>

議長	<p>なのか。また、目標として、年2回マスコミに取り上げるような施策などをやっていただきたい。</p> <p>近隣自治体との比較はやっているのか。</p>
職員	<p>参考までに、寄附額は津島市が約3億円台、稲沢市が約1億円台だったかと思う。</p>
議長	<p>愛西市は地方交付税の交付団体であるため、マイナスになった部分の約75%程度を国が交付税でバックアップしてくれる。ところが、企業が立地しており、税収が豊かな不交付団体はバックアップがないため、その分税金が流出したということになる。それほどの額でもないというのが愛西市の現状なのかもしれない。</p> <p>(ヒアリング判定・提言シートを記入)</p>
議長	<p>それでは、判定の内容を確認させていただく。</p> <p>(挙手により判定を集計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妥当」…9名 ・「再検討が必要」…3名 <ul style="list-style-type: none"> (内訳)・「現状認識・課題認識を見直すべき」…1名 <ul style="list-style-type: none"> ・「取組内容を明確にすべき」…0名 ・「取組内容に新たな視点を加えるべき」…2名 ・「取組をスピードアップすべき」…0名 ・「その他」…1名 ・「判断ができない」…1名
議長	<p>まず、判断ができないと判定した理由をお聞かせいただきたい。</p>
委員	<p>返礼品をいただかなくても自治体へ寄附したいという気持ちがあるため、判断できないと思った。</p>
議長	<p>それでは、「再検討が必要」と判断した理由について、お聞かせいただきたい。</p>
委員	<p>市の良さをアピールするといいいのではないかと思いましたが、財源ということ考えると難しいと思い、「再検討が必要」の「その他」を選びました。</p>
委員	<p>市に入ってくる金額だけではなく、流出額や手数料、そして、差し引</p>

	<p>きでいくらなのか書くべきであると思う。それがあって初めて議論もできると思ったので、「再検討が必要」とさせていただいた。</p>
議長	<p>返礼品の準備、ポータルサイトの手数料等の経費が50%かかっているため、労多くして益少なしの可能性もある。データとして示すのは、そこまでの差引勘定をきちんと示してほしいということである。</p>
委員	<p>貴重な自主財源ということであれば、少しでも品目を考えながら財源として確保していただきたい。今後、マスコミに取り上げてもらうような方法もありかと思う。</p>
議長	<p>次にヒアリングを実施するのはいつ頃になるのか。</p>
事務局	<p>来年度の10月か11月を予定している。</p>
議長	<p>また、項目を2つ選び、担当課に来ていただき、詳しい内容を説明していただいた上で、行政改革の観点から判定していただきたい。</p> <p style="text-align: center;">(何点か意見あり)</p>
議長	<p>今後、本日もご意見いただいたものをベースに、できるだけご期待に沿えるようにしたいとのことである。事務局にはそれをお願いしておきたい。</p>
事務局	<p>4. その他 (第3次行政改革大綱期間スケジュールについて説明)</p>
議長	<p>これをもって閉会とさせていただく。</p>